



通信

2025. 4. 25 No. 181

公益社団法人 福島原発行動隊

東京都千代田区神田淡路町1-21-7

静和ビル 1階A室 〒101-0063

Tel: 03-3255-5910 Fax: 03-3255-4811

Mail: svcf-admin@svcf.jp Web: http://svcf.jp

転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

4月 (第148回) 院内集会

4月の院内集会(第148回)は、「第7次エネルギー基本計画と日本の安全保障」をテーマとして、エネルギー/外交・安全保障専門家の金子熊夫さんを講師として開催された。

- 日時：2025年4月17日(木曜) 11:00-12:40
- 会場：参議院議員会館 103号室 オンライン集会を同時開催
- テーマ：第7次エネルギー基本計画と日本の安全保障—再エネ vs. 原子力の2項対立を超えて—
- 講師：金子熊夫/EEE研究会代表/外交評論家(元外交官)

講師プロフィール：

1937年、愛知県生まれ。最終学歴：ハーバード大学法科大学院卒(修士＝国際法専攻)。

外交官としてほぼ30年間世界各地で勤務。一時期国連に出向して国連環境計画(UNEP)の創設に参加。UNEPアジア太平洋地域代表などを歴任後、外務省に復帰。初代の外務省原子力課長として日米原子力交渉、INFCEなどを担当。その後太平洋経済協力日本委員会事務局長、日本国際問題研究所研究局長(所長代行)などを経て1989年に退官。同時に東海大学教授(国際政治担当)、2002年退職。その後エネルギー環境メール会議(通称：EEE会議)を創設し代表として現在に至る。

【講演概要】

初めに自己紹介<“へそ曲がり人生”>を。

私は元々環境主義者で、1960年代半ば外務省で、というより日本政府内で最初の、ただ一人の環境問題担当官であった。「かけがえのない地球」というスローガンはそのころ小生が創作したもの。それが日本における「公害から環境へ」の意識革命を促進し、現在の環境保護運動に繋がっている。

その私が環境主義者から原子力推進論者へ「転向」したのは、第一次石油ショック(1973年)で無資源国の悲哀を味わったからである。東日本大震災/東電原発事故以後は原子力村の私設応援団長風に原発復活を支援している。世間では小生はもっぱら原子力推進論者とみられているようだが、環境にも原子力にも等分に関心を持っている。不毛な二項対立は好まない。自分では常にバランス(中庸)をとっているつもりで、基本はやはり愛国心(Japan First)で、「変説するとも変節する勿れ」は小生の一貫した生活信条である。

エネルギー問題には、歴史的背景についての理解がな



ければならない。福島原発の重大事故で原子力はゼロに近い状態になった。「ウクライナ」で原発が見直されているが、こんなに早くとは思っていなかった。第7次エネルギー基本計画で2040年には原子力をエネルギー源の20%にとしている。今動いているのが12基、10%。20%は極めて難しい。しかし、日本はCO2実質ゼロを目指しているのだからなんとして達成しなければ

ならず、そのためには原子力を動かさねばならない。エネルギーは人間の体で言えば血液であって、だから国家にとっては高い安いの問題ではなく日本全体として原発を早く動かさねばならない。自然エネルギーだけでは国力を維持することはできない。

先日なくなった元米国国務副長官のアーミテージが原発事故翌年の 2012 年に「このままでは日本は二流国になってしまう、一流国でありたいのなら原子力をつかわねばならない」と言っていた。

将来の課題として、今日は特に陸地だけの原発ではなく海洋を利用することを言いたい。日本の排他的経済水域 (EEZ) は世界で 6 番目の広さがある。これを利用しない手はない。「トイレなきマンション」として問題になっている使用済み核燃料の処理を南鳥島の地下の堅い岩盤に埋めることが考えられる。洋上の浮体式原発も検討すべきだ。(2025/4/14 日 HP 掲載の講師提供資料参照)

【質疑概要】

問: 原発活用の良し悪しを言う以前に、使用済み燃料の地上保管場所を早急に作らないと 2030 年ころには関西電力の 3 か所の原発が動かなくなってしまうのではないかと。

金子: 六ヶ所での再処理にはあと 2 年ほどで目途が立つだろう。それまでの間はむつ市の貯蔵施設に運んでおくことにする。関西の方は中国電力が山口県上関町に中間貯蔵施設を作ろうとしており、いずれ地元の了解を得て適地が得られるのではないかと。それほど悲観していない。

問: もし原発がなければどうなるのか、停電などの問題が

おきるのだろうか。

金子: 原発ゼロは考えられない。

問: 「再処理が核拡散につながらない」「再処理権を手放すべきではない」とされているが、それはどのような理由によるものなのか。

金子: とにかく歯を食いしばってでも再処理をということだ。

問: 元首相の小泉純一郎氏が「使用済み燃料の処分先を決めた上でなければ、原発は作るべきではない」と言われていることをどう思われるか。

金子: 小泉さんはフィンランドのオンカロ最終処分場を視察して、日本で高レベル放射性廃棄物の最終処分場を見つけることが困難だということから、「原発ゼロ」論を唱えるようになったのだが、極めて無責任だ。けしからん。短絡、単細胞としか言えない。

問: 原発を使わないと日本が二流、三流国になるのだとしてもどうということはないが、対米戦争に踏み込んでしまったのが「石油の一滴血の一滴」であったことからして、エネルギーに関わる安全保障上のリスクはなんとしても避けねばならない。その観点からして再生可能エネルギーの開発は国運をかけて進めねばならないが、原発を重視することから二項対立的に再生可能エネルギーが軽視されているきらいはないか。

金子: 「原発復活を支援する」立場からお話したからそうした印象を与えたかもしれないが、本意ではない。再生可能エネルギーの開発もぜひとも行わねばならない。

2025 年度事業計画/予算

2025 年度の事業計画/予算は、前 2024 年度ほぼ同様です。支出予算は、前 2024 年度の実績見込みをもとに前年度 (1,900,000 円) よりやや多く 2,100,000 円としています。他方収入は、会費収入等の減少を見込んで前年度よりやや少ない 1,800,000 円としています。この結果一般財産と指定財産合計の「残高」は前年度末 (3,433,000 円) から 175 万円少ない 1,683,000 円としています。(2025/4/14 日 HP 掲載の「2025 年度事業計画及び予算」参照)

【行動隊 5 月スケジュール】

●院内集会

15 木曜日 11:00-12:30、郡山で、北村俊郎講師

●連絡会議

以下の金曜日 10 時 30 分

2、9、16、23、30

●SVCF 通信

23 日発行

SVCF 通信 : 第 181 号 2025 年 4 月 25 日

